

会 議 録

作成日 令和6年9月11日

日 時	令和6年9月11日(水) 10:30 ~ 11:30	場 所	特別養護老人ホームすこやか苑 1F 相談室
会議名	令和6年度 第3回 運営推進会議		
出席者	入居者代表・家族代表・地域住民の代表(地区社協会長)・地域包括支援センター職員 施設長・生活支援課長(生活相談員)・副主任支援員(介護支援専門員)		
<p>1 開 会</p> <p>2 挨拶 施設長</p> <p>※ 以下のとおり、施設長から挨拶あり</p> <p>本日は令和6年度第3回運営推進会議にお集まりいただきましてありがとうございます。日頃から当苑の運営につきましましては、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。</p> <p>新型コロナウイルスも5類に引き下げられ久しくなりますが、まだまだ感染リスクはあり、当苑でも先月半ばから今月初めにかけて、入居者2名、職員6名が罹患しました。入居者2名につきましましてはいずれも重篤には至らず、10日間の個室静養を経て今は回復しております。静養期間中は面会も一時中断したり、行事やユニット間の行き来も制限したことで、入居者、ご家族様にもご不便をおかけしました。現在は皆元気になり、当たり前前の生活ができますことが、どれだけ幸せであるか実感している次第であります。これからも感染予防は徹底して参りますが、感染者が発生した際は初動対応が重要でありますので、今回のことも含め、経験をもとに今後も適切な対応をして参りたいと思います。</p> <p>また、8月にはコスモス町会の会長のご厚意により、こどもねぶたを玄関先まで運行して下さり、入居者の皆様を楽しませてくださりまして、ありがとうございました。</p> <p>本日はすこやか苑での運営状況についてのご報告をさせて頂き、お集まりの皆様からも、地域での情報や施設に対しての提案やご要望などを出して頂き、より開かれた施設運営に繋げて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>3 議 事</p> <p>※ 議事に入る前に各委員短く自己紹介を実施</p> <p>(1) すこやか苑の運営状況について</p> <p>※ 別添「令和6年度 第3回 特別養護老人ホームすこやか苑 運営推進会議資料」参照。生活支援課長から報告した。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ヒヤリハットやアクシデント報告について、事故が少ない印象がありました。対策を講じていて、事故が少ない状況ではないでしょうか。コロナ罹患者がいるなど大変な状況があった中でも、工夫して行事を実施できていて良かったと思います。(地域包括支援センター社会福祉士)→ 手踊り演舞会は、入居者のご家族が指導している名の知れた会の方々が来苑されました。全国の大会で賞を取っている方々です。子供たちの手踊りに「かわいい」と大きな声で声援される入居者もいました。(施設長)→ 夏祭りは、体調不良者が出て縮小して行ったのですが、いつもと志向を変えて人の移動を少なくして、アトラクションを移動させる工夫を行いました。(生活支援課長)・ 町内会のこどもねぶたを運行した時に観覧に集まった入居者の方々が涙を流していたのを見て、次			

年度も運行しなければと感じました。(地区社協会長)

- ・ コロナ罹患者が出て職員の休みなどもあり、日ごろの業務が大変だったと想像が付きまします。ただでさえ人手不足な上、こういった状況になった際に良く運営できていると感心しています。(家族代表)
- 職員の調整は本当に大変で、ケアが行き届かない点多々あると感じています。できるだけ、入居者に不利益がないように努めています。(施設長)

(2) 実習生の受け入れ状況について

※ 別添「実習等の受け入れ状況について」参照。副主任支援員より報告した。

- ・ 実習生の生の感想から、実習生が感銘を受けたこと伝わってきました。良い実習になれたようで良かったです。(地区社協会長)

(3) その他

- ・ 数年ぶりに社会福祉協議会が行っている社会福祉大会を 8/22 にリンクステーションホールで開催しました(各地区社協から 10 名程度参加)。大会の中で金婚式の表彰を行い、対象となったのは 298 組(去年は 400 組ほど)となりました。年々、夫婦のどちらかが他界し、一人暮らしが増えていることを感じます。(地区社協会長)
- ・ コスモス町会では、敬老のお祝いに 75 歳以上の方へ記念品を贈っていますが、今年は 81 名でした。地区社会福祉協議会から一人 500 円ほどと町内会からいくらか足して記念品を選んでいきます。こちらは増加傾向にあります。(地区社協会長)
- ・ 地区社会福祉協議会として、佃中学校へ出向き、中学生による除雪ボランティアの任命式を行ってきました。学校としては、こういったボランティア活動をとおした教育を行っているようです。(地区社協会長)
- ・ 今年はアメリカシロヒトリ(蛾)が増加しているようです。すこやか苑の周りの木々もみまわったのですが、今のところ大丈夫そうです。私の畑では、薬を撒いたりしています。気を付けてください。(地区社協会長)
- 施設の周りの木々まで正直目が行き届かないので、ありがとうございます。(施設長)
- ・ 施設での生活で特に困っていません。透析に今通っていますが、大変です。(入居者代表)
- 遠方の娘さんが、こまめに面会に来ていただいたり、先日は自宅に一時帰宅出来ました。気晴らしになっているようで良かったですね。(副主任支援員)
- ・ 8 月に延期になった水害を想定した避難訓練は 11 月に移行しました。地域防災協力隊の皆さんに参加を予定している火災を想定した避難訓練は 10/5(土) 10:30~を予定しています。近日中に案内を発送しますので、参加可能であればお願いします。(副主任支援員)
- ・ 社会福祉協議会で主催している介護サポーター事業、職員が専門的なケアに集中できるように職員の業務補助を行うサポーターをすこやか苑でも募集します。少しでもマンパワーを補えることに期待しています。近いうちに近隣地区に案内ビラが回りますので、お知り合い等で興味がある方がいましたらご紹介ください。(施設長)

4 閉 会

令和6年度 第3回 特別養護老人ホームすこやか苑 運営推進会議資料

○入所状況

■入 所	定員29人	
■稼働率	7月(96.3%) ※看取り1人 入居1人 入院1人	8月(93.4%) ※看取り1人 入居1人 入院退所1人
■平均介護度	7月(4.2)	8月(4.2)
■平均年齢	7月(90.6歳)	8月(90.8歳)
■入所申込状況	7月(1件)	8月(3件)
	※総待機者数 49名(8月末)	
■短期入所	定員10人	
■稼働率	7月(92.5%)	8月(86.1%)
■平均介護度	7月(3.3)	8月(3.1)
■平均年齢	7月(86.3歳)	8月(86.7歳)

○事故報告について

※ 毎月安全委員会にて対策検討

■令和6年

区 分/月	7月	8月
ヒヤリハット	5	3
アクシデント	5	6
事故(Lv3以上)	0	1

※ 事故Lv3以上：通院を伴った事故ほか市役所へ事故報告したもの

ヒヤリハット・アクシデント内容

区 分/月	7月	8月
転倒・転落	5	6
裂傷	2	1
服薬	1	2
その他	2	1

※ 上記集計には、アクシデント(事故)のほか、ヒヤリハット(事故未遂を含んでいます)。

○虐待防止・身体拘束廃止への取り組みについて

- ※ 身体拘束がある場合は、毎月、虐待防止・身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束解除に向けた検討を実施。下記事例の解除を受け、現在身体拘束は実施していない。

解除できた事例

- ・ 短期入所を不定期で利用している方が急に立ち上がり動き出す恐れがあるため、職員が見守り困難時（他者介助など）に一時的に車椅子用ベルトを装着する。
→先月利用時から、車椅子ベルト装着を家族同意のもと中止とした。特別目立った危険行為等なく、概ね落ち着いて過ごすことができた。

○職員研修等

- ・ 7/31（水）～8/14（火） リスクマネジメント研修①（自己研修：動画視聴）18名
- ※ 上記ほか、法人・外部研修へ数名参加。8/28（水）看取り介護研修として、外部講師の講演予定があったが、苑内でコロナ感染者が出たため、9/18（水）へ延期。また、同日予定していた防災訓練（水害・地震想定）は11/13（水）へ延期した。

○ボランティア受入・地域貢献活動

- ・ 7/5（金）車椅子清掃・洗濯畳など
- ・ 7/8（月）アロマハンド・フットマッサージ 各1名
- ※ 夏祭り・居酒屋で家族ボランティア数名を予定していたが、苑内で体調不良者が続いたため、家族ボランティアの参加は遠慮してもらい、行事も縮小して実施した。

○全体行事やユニット行事等実施状況（7月・8月）

7/17・21（水）書道クラブ

7/20（土）手踊り演舞会

8/7（水）夏祭り・居酒屋

8/14（水）音楽体操クラブ

- ※ 上記ほ各ユニットでお誕生日会などミニイベントを実施。

実習等の受け入れ状況について

R6.9.11 現在

○大学生

社会福祉基礎実習（1年生）	青森県立保健大学	4名（1日）
見学実習（2年生）	青森県立保健大学	1名（1日）
教員免許に係る研修（1年生）	弘前大学	1名（5日）
介護実習ⅡA（1年生）	明の星短期大学	1名（14日）
ソーシャルワーク実習Ⅰ（2年生）	青森県立保健大学	1名（12日）
	青森大学	2名（8日）
ソーシャルワーク実習Ⅱ（3年生）	青森県立保健大学	1名（23日）

※ 「ソーシャルワーク実習」は、社会福祉士の受験資格、「介護実習ⅡA」は、介護福祉士の受験資格の必須実習。上記ほか、青森県立保健大学4年生の卒業論文に関わるインタビュー等（約1時間）へ対応した。

○高校生

福祉施設職場体験事業	明の星高校	1名（1日）
インターンシップ（1年生）	青森商業高校	2名（1日）

○中学生

インターンシップ（2年生）	戸山中学校	4名（2日）
---------------	-------	--------

※ 造道中学校のインターンシップを予定していたが、苑内でコロナ感染者が出たため中止となった。

○実習参加者の声－実習レポートから抜粋－

実習を通して特に学んだこと

実習を通して、誠実かつ丁寧に対応することの大切さを特に学んだ。例えば入所相談の時、以前入所されていた方が再度入所相談に来た場面を見学させていただいた。見学の中で、相談者が施設や職員のことをとても信頼していることが伝わってきた。親族も施設で看取ってもらい、また以前入所していたこともあり、当時から施設の対応に好感と安心を抱いていたと知った。このことから、職員の努力とその積み重ねが入居者やその家族の幸福や満足感につながると改めて感じた。他にも誠実さや丁寧さを感じる場面は実習中数多くあり、食事介助や排泄介助、声掛けや清掃の仕方でも、一つ一つ積み重ねればそれは入居者との信頼関係や施設の評価につながる。また、「誠実さ」とは相手に優しく接することではなく、相手の期待を裏切ったり相手が不利益を被ったりしないよう嘘偽りなく対応することである。その誠実さを継続することで信頼関係や援助関係を構築することができ、現在の入居者やその家族だけでなく将来の入居者の獲得にもつながると考えられる。人と誠実に向き合い接することは、福祉の現場だけでなく普段の対人関係でも重要である。そのため、実習で学んだことを心に留めてこれからの生活に活かしていきたい。

実習を終えた感想

私は、すこやか宛で実習ができて本当に良かったと思っている。1ヶ月の実習を通して、社会福祉士の仕事や介護の現場だけでなく、社会人としての在り方も学ぶことができた。特に、一人ひとりの職員が自分の仕事に責任をもって取り組み、専門性を活かしてサービスの質の向上に努める姿が格好良いと感じた。仕事にまっすぐ向き合っているからこそ、それが入居者や家族にも伝わっていると強く思う。もともと高齢者福祉に関心があって志望した訳ではないが、興味あまりなかった私でもこれだけ多くの学びを得て介護に関心を抱いて終えることができたので、これまでの実習生やこれから来る実習生も、それぞれがすこやか宛での実習にたくさんの学びを感じると思う。すこやか宛で学んだことや仕事に熱意をもって取り組んでいる人がいることを忘れずにもっと頑張っていきたいとともに、私自身も熱意をもって取り組めるような仕事に就きたいと感じた。

※ソーシャルワーク実習Ⅱ、青森県立保健大学3年生。本人の承諾を得て引用